

消費者として



(公財)関西消費者協会
理事長 惣宇利 紀男

(元大阪市立大学大学院
経済学研究科教授)

世界を見る眼について考える

世界を見る眼

戦後、食糧難で東京や大阪の女性が立ち上がった。世の中の生活が根底から変わろうとするとき、国民は立ち上がり意見を吐露するのではないだろうか？戦後約70年が経過し人々は自分たちの生活環境が根底から変わろうとする今、再び立ち上がるような気がしています。

四つの眼

今世界を見回したとき、4つのことが気になります。一つ目には「経済のグローバル化」、二つ目には「経済の国際化」、三つ目には「公私の役割分担」、そして4

つ目には「開発と環境・福祉」であり、これらすべてでわが国は大きな節目を迎えており、国民が声をあげているのも宜なるかなと思います。旧ソ連の解体とCISの台頭は1917年のロシア革命に始まりますが、1991年ゴルバチョフ体制の崩壊によって戦後長期間続いていた冷戦構造の解消ないしは共産主義の一角が崩壊したことを意味します。二つ目の「経済の国際化」は、共産主義の一角である中国のWTOへの加盟(2001年)を意味します。中国の「社会主義市場経済」への移行は、鄧小平氏の「南巡講話」によるところが大きいのですが、これによって世

界は「市場主義・民主主義」の一体に移行したことを意味するようです。これによって世界がすぐに一極化せずに現在では「格差社会」や「ポピュリズムの蔓延化」などの反動が生まれてきています。三つ目の「公民の役割分担」は、小さな政府を模索するサッチャー政権(第71代英国首相1979~1990年)の12年9~1990年の12年間の出現とその崩壊で「民の「失敗」のみならず、公の「失敗」も目まぐるしく変わりました。四つ目は、「開発と環境・福祉」でまとめられる分野です。SDGsは、2016年から2030年までを期限とする国連による人類共通の行動計画「日報問題」等や「セク

ハラ発言」を見るにつけ、最早、官の「優秀な官僚機構」が世界の範となり得ないのは明白です。また、四つ目については「LGBT問題」に象徴されたり日本企業における女性の管理職登用が世界順位で100番目以降で徘徊しているまま

併せて議論されるようになってきました。一つ目と二つ目は、わが国の周りで生じた世界的な現象です。四つ目の眼と私たち

四つの眼と私たち

このような四つの眼は、私たち日本人にとってはどう映っているのでしょうか？

三つ目については、「森友学園」や「加計学園」、ひいては防衛省の「日報問題」等や「セク

これからの私たち

このようにこの間まで世界に君臨していたかも知れない「優秀な官僚機構」も「日本的経営」も、地に落ちた現実、翻ってなぜ私たちはべき時でしょう。

はわが国の周りで生じた世界的な現象と言えるのでしょうか？三つ目と四つ目について世界に冠たるものだったはずがそうでなくなっていたのでしょうか？これは戦後わが国が自分さえよければそれでよしとする「小国の論理」に陥り、世界と共に生きるという「共生の論理」に踏み出さなかったことに依るものと考えます。第二次世界大戦の終了後、わが国はソ連、北朝鮮、韓国とは平和条約を結んでいません。例外として結んだはずの中国とも、日中友好平和条約から40周年を祝うべく中国の首相が今年日本にやってきた。結んだはずの田中角栄首相は1972年だった。現実には、官民共に世界の範にはなれない事実を直視すべき時でしょう。